

SHOW HEYシネマルーム



Data
監督: ジェームズ・キャメロン
出演: サム・ワーシントン / シガー ニー・ウィーバー / スティー ブン・ラング / ミシェル・ロ ドリゲス / ジョヴァンニ・リ ピシ / ジョエル・デヴィッ ド・ムーア / ディリープ・ラ オ / ソーイ・サルダナ / CC H・パウンダー / ラズ・アロ ンソ / ウェス・ステューディ ン / ピーター・メンサー

👁️👁️ みどころ

ひょっとして、全世界興行収入の最高記録をもつ、あの『タイタニック』(97年)を抜くかも? そんな期待のかかる3D大作をやっと鑑賞。3Dは魅力も倍だが、疲れも倍? 私にはそんな実感が。

壮大な世界観、ストーリーのオリジナル性、造形と色彩の美しさが本作の特徴だが、底流を流れる思想は人間の強欲さ? ハッピーエンドが絶対条件だから大きな展開は読めるが、やっぱり私にはジェイクとネイティリよりジャックとローズの方が・・・。

* * * * *

3Dは魅力も倍だが、疲れも倍?

私は過去何回か短いストーリーの3D映画を体験したことがあるが、本格的なストーリーを持ち、しかも162分もある超大作3D映画を観るのは本作がはじめて。白内障の手術を2日後に控えて、そんな刺激的な映画を観るのはどうかとも思ったが、別に支障はないはず。

長年の構想を経て『タイタニック』(97年)のジェームズ・キャメロン監督が完成させた本作は世界中で大ヒットしているが、壮大な世界観とストーリーのオリジナル性とそして造形と色彩の美しさが本作の特徴。もっとも『ロード・オブ・ザ・リング』シリーズにおける第1作や『ナルニア国物語』シリーズにおける第1作の『ナルニア国物語 第1章 ライオンと魔女』(05年)にはビックリしたが、2作目以降は次第に飽きてきた。それと同じように、『アバター』のような奇想天外なストーリーは1作目が華で、万シリーズ化されるようなことがあれば、次第に飽きてくるかも。それはともかく、3Dは魅力も倍だ

が、疲れも倍？

CO2の5%削減は？西暦2154年の地球は？

東海道新幹線に代わる新しい大動脈であるリニアモーターカーが東京 - 名古屋間で営業を開始するのは2025年、東京 - 大阪間は2045年の予定だ。また2009年12月ポーランド西部のボズナニで開催された第14回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP14）が、「ポスト京都議定書」の具体的な成果を得られぬまま閉会したのは記憶に新しいところだが、2008年7月7日の洞爺湖サミットで合意されたのは「2050年にCO2の50%削減」。このように、今私たちが近未来の目標として構想できるのはせいぜい50年先？

それに対して、本作の主人公である元海兵隊員のジェイク・サリー（サム・ワーシントン）が戦闘で負傷したため車椅子を余儀なくされた身体で失意の生活を送っている本作の時代は、西暦2154年。つまり、今から約150年先の未来だ。すると率直に考えれば、日本では東京 - 大阪間にリニアモーターカーが開通し、CO2の50%削減が実現してから、さらに100年後の地球。そう考えると、その時の地球の姿を想像することは到底無理？

本作のテーマは？ある任務とは？

しかして本作のテーマは、このジェイクが双子の兄トミーの代わりに地球から5光年離れたアルファ・ケンタウリ系の惑星ポリフェマスの衛星パンドラで「ある任務」を果たすこと。「ある任務」とは、パンドラには地球の燃料危機の解決に繋がる重要な鍵となる鉱石、“アンオブタニウム”があるため、地球における燃料の危機を解決するべく、それを手に入れる“アバター・プロジェクト”に参加すること。つまり、19世紀末の時代に西欧列強がアジアに対して行った植民地政策と同じようなものだ。

そう考えると、本作はジェームズ・キャメロン監督の壮大な世界観が特徴だと言ったものの、所詮人間の強欲さをテーマとしたオーソドックスなもの？するとそれは、宮崎駿監督の『もののけ姫』（97年）とも共通する日米共通のテーマ？

私にはやっぱり、ジャックとローズの方が

『タイタニック』でジャックを演じたレオナルド・ディカプリオは男の私が見ても最高にかっこ良かった。他方、ローズを演じた若き日のケイト・ウィンスレットはかなり太め（豊満）だったが、すっかり演技派に成長した『愛を読むひと』（08年）とは全く異なる若さの魅力にあふれていた。したがって、タイタニックが沈んだ後、脂肪分の多いローズが冷たい海の中に入らずジャックだけが入り、ついには力尽きてしまったことに私は多少の理不尽さを感じていたものだ。

この『タイタニック』が全世界であげた興行収入18億4000万ドル(約1800億円)は映画史上最高のもので未だ破られていない記録であることは、私が『映画検定公式テキストブック』(株式会社キネマ旬報社・2006年)で学んだ知識(306頁)だが、ネット情報によれば1月12日現在で約13億4170万ドルをあげている本作はひょっとしてそれを破ってしまうかも。

それはともかく、本作で何よりも興味深いのは、パンドラ星に住んでいるナヴィであるネイティリ(ゾーイ・サルダナ)と、地球人とナヴィのDNAを遺伝子操作によって合成して作り出したハイブリッドの肉体をもつアバターに変身したジェイクの姿。人間の想像力はどこまでも広がるものだという驚きを覚えるが、さて『タイタニック』におけるジャックとローズに比べて、本作におけるジェイクとネイティリの方が魅力的?私には到底そうは思えないのだが・・・。

ジェイクとネイティリの出会いは?

ロミオとジュリエットは互いに一目ボレだったが、『タイタニック』でのジャックとローズの出会いは必ずしもそうではなかったはず。それと同じように、アバターの姿で突然パンドラ星の森の中に入り込んできたジェイクを、ナヴィの狩猟部族オマティカヤ族の族長の娘であるネイティリが少なくとも当初は敵対視しないし用心したのは当然。しかるに、6本の足で尻尾の先に強力な毒針を持つ、パンドラ最強の肉食動物であるサナターに襲われ、今にも喰われてしまいそうなジェイクをネイティリが助けたのはなぜ?ネイティリがジェイクを信頼するようになったのは、なぜかエイワと深い繋がりを持ち予言や兆候をもたらすと考えられている聖なる木の精がジェイクのそばに集まり、ジェイクの身体を包んだためだが、なぜそうなったの?

これは、きっとジェイクが選ばれた存在だから。そう感じたネイティリは結局ジェイクをナヴィの集落に案内し両親に紹介したのだが、こりゃひょっとして将来の2人の結婚を予感?

『もののけ姫』との共通点を感じたのは私だけ?

それはともかく、本作にみる聖なる木の精や、森の中心にある巨大な樹木そして集落での生活におけるナヴィと自然との調和などの姿を観ていると、そこには『もののけ姫』で観た、自然と人間の調和との共通点が。さらにそれは、ナヴィが地上で乗りこなす地球の馬に似た6本足の動物ダイアホースや、大きく獰猛な肉食飛行動物であるバンシーとフィーラーで繋がることによって心と意思が通じ合う姿をみてもそれは全く同じ。

人間による地球環境の破壊が近年加速していることを考えると、人間と自然との調和が大切なことは明かだが、ひょっとしてキャメロン監督が主張するキャメロン監督史観は、『もののけ姫』における宮崎駿史観と全く同じ?そんな風を感じたのは私だけ?

圧倒的な軍事力の勝ち？過去の歴史は？

日露戦争は圧倒的に不利と予想されていた日本海軍がバルチック艦隊を完璧にうちめしたが、艦隊決戦の夢はそれでジ・エンドになったことは、その後の歴史が証明したとおり。また、いくら圧倒的な軍事力を誇っても、必ずしもその国が勝つとは限らないことは、ベトナム戦争と今なお続くイラク・アフガン戦争によって明らかどころだ。そんな150～200年前の地球における歴史が、パンドラ星への侵略戦争で再現されようとは・・・。

資源開発会社RDA保安部のマイルズ・クオリッチ大佐（スティーブン・ラング）は、ジェイクが思ったように任務を遂行しないことに業を煮やし、遂に武力行使を決意。圧倒的な飛行軍団とミサイルまで備えた火力をもってすれば、森の中に住むナヴィをひねり潰し、アンオブタニウムを強奪することなどたやすいこと。クオリッチ大佐がそう考えたのは当然だ。他方、命がけでナヴィに逃げると説得に入ったジェイクは、予想どおり説得に失敗。こうなりゃ後は攻撃あるのみ、と総攻撃をかけたからナヴィはたまらない。ナヴィは甚大な被害を受け、退却するばかり。

部族連合、動物連合の反撃は？

たしかに一時はそんな状況も生まれたが、ジェイクが完全にナヴィの側に立ち地球軍と戦うリーダーだと認められたのは、ジェイクがバンシーよりさらに大きな飛行生物であるレオノプテリクスを乗りこなしたため。これは過去数名のナヴィの指導者しかできなかった快拳なのだ。さあそうなれば、ナヴィのオマティカヤ族には他の部族の応援部隊が続々と。さらに森の中で生きているのはナヴィばかりではなく、サナターなどの強力な肉食動物も多い。桃太郎が鬼を退治できたのは、彼自身の力もさることながら、猿や犬や雉が桃太郎を応援し共に戦ってくれたからだ。さて、圧倒的な軍事力による侵略戦争に対する、ナヴィの部族連合プラス森の中の生きとし生けるすべての動物連合による反撃は？そして、その帰趨は？

3Dで展開されるそんな壮大な戦闘シーンを体験するのははじめてだから、こりゃプラス300円を払っても安いもの。どっと疲れることまちがいなしだが、そんな本作の醍醐味をタップリと味わいたい。

『アバター』をめぐる米中抗争は？

2010年1月13日に突如起こった米中抗争(?)は、「ネット情報の検閲」をめぐるインターネット検索最大手の米グーグルと中国政府との抗争。グーグルは「ネット情報の検閲」をやめなければ、「中国からの撤退も辞さない」と表明し、中国政府が情報統制の手段として常用している「ネット検閲」に真正面から異議を述べたから大変。そして、クリントン米国務長官が「(検閲は)世界人権宣言に違反する」と述べてグーグルを支援したか

ら、問題は—企業と中国政府の抗争を越えて国家間抗争に？そんな風に思っていると、それに続いて、『アバター』をめぐる米中抗争が1月22日に突如持ち上がった。つまり、中国の映画館が1月22日から相次いで『アバター』の通常版の上映を打ち切りはじめたのだ。

2010年1月23日付日本経済新聞によると、これは、「国産映画の保護を狙う中国当局が上映期間の短縮を指示したとみられる。3次元(3D)映像版は引き続き公開するが、市民からは不満の声が上がっている」とのことだ。また、「北京のシネコン(複合映画館)『万達国際電影城』では、1月4日から2月11日まで、アバター通常版を9劇場で上映する予定だったが、22日に公開を取りやめた。中国本土では3D版を上映する映画館は少ない」とのことだ。また、「香港メディアによると、中国国家広電総局が映画業界などに上映期間の短縮や宣伝禁止を指示。大作の公開が集中する春節(旧正月)期間に向けて、国産映画を支援する目的があるという」とのことだ。

さらに、「アバターは貴重な鉱石を狙う人類と先住民との戦いを描いた作品。公開2週間のチケット販売額は、中国では初めて5億元(約66億円)を越す大ヒットとなった。インターネット上では『土地の強制収容や少数民族問題などを想起させる内容が当局を刺激したのではないか』といった書き込みが相次いでいる」と書かれている。

たかが映画でそんなに目くらまをたてることはないと思うのだが、近時空母の建造を公表するなど海軍力を増強し、明の時代における鄭和の率いる大艦隊による「南海遠征」を夢んでいる(?)中国、あるいは西沙諸島や南沙諸島の開発計画を発表してベトナムとの対決色を強めている中国を考えれば、なるほど、なるほど・・・。

2010(平成22)年1月25日記

興行収入世界記録を更新！

『映画検定 公式テキストブック』には「雑学いろいろ」の中に「最高の興収をあげた映画は・・・」の質問がある。その答えは『タイタニック』(97年)、全世界での興収が10億ドルを超えた最初の映画で、総興収は18億4500万ドルだ。その記録を塗り替えたのが、同じジェームズ・キャメロン監督の『アバター』。10年4月5日現在全世界の興収は26億8600万ドル(約2418億円)に。その数字もすごいが、もっ

と驚くべきは『タイタニック』が約1年半かけて達成した記録を、公開後39日間という驚異的なスピードで塗り替えたこと。第82回アカデミー賞では最多9部門にノミネートされながら、作品賞・監督賞は別れた妻の『ハート・ロッカー』に奪われ、撮影賞、美術賞、視覚効果賞のみという結果になったが、歴代1位の記録は今なお更新中だから最終的にどこまで伸びるか注目したい。

2010(平成22)年6月1日記